

まちとつながる「余白」のある住宅

－横浜市羽沢常盤台地区を対象として－

Houses with 'spatial void' that Connect to the Community

-A case study of the Hazawa and Tokiwadai Districts of Yokohama City-

山家研究室 濱 大智

研究概要：

本研究では住宅に関わる場所とするために、建築内外に存在する空きを「余白」と呼び、余白を居場所化させ、その連鎖によって小さく居場所をつくりながら既存のまち並みを残していく住宅地の更新法を提案した。

研究目的：

余白を通して高齢者や一人親世帯、障害者といった社会的弱者を含む様々な人たちが友人や隣人、同じまちに住む人と関わりながら、人生における選択肢を増やし、助け合える人間関係を構築していくことを目的とする。

研究成果：



苦労した点や感想など：住宅単体ではなく住宅地として更新していく方法を考えることに苦労しました。設計を進めていく中で住宅単体というミクロな視点で考えることが多くなってしまったので、常に全体像を考えながらマクロな視点を持つことを心がけました。ご指導いただきました先生方、協力してくれた後輩たち、本当にありがとうございました。